



広島大学で物理の講義・実験

【6月14日】広島大学附属福山高等学校を訪問した。まず、高1物理基礎と高2生物基礎の授業に参加し、同校生徒と一緒に計算・実験をした。

有志生徒との昼食会では食べるいとまもないほど、会話に花を咲かせ、折り紙

また、日本文化理解の一環で、浴衣の着付け体験も実施。自分で帯を締めて、和装を楽しんだ。

【6月13日】広島大学総合科学部国際共創学(IGS)を訪問し、生物と物理の講義・実験を体験した。IGSの学生によるキャンパスツアーや意見交換会では、キャンパスライフを直接見聞きし、日本への進学に対して一層意欲的になっていった。

参加したIGS学生の中には、これからフィリピン大学に留学する日本人学生がおり、双方にとって有益な情報交換の機会となった。

イリピンからの留学生との交流会をすることで留学を促進した。さらに、広島大学附属福山高等学校での同世代交流により、双方の国際感覚の養成、今後の継続的交流のきっかけを作った。

プログラムスケジュール	
6月12日	福岡空港から東広島へ移動 ひろしま国際プラザに到着
6月13日	広島大学総合科学部国際共創科で生物と物理の実験体験 広島大学学生との意見交換会 日本文化体験(浴衣着付け)
6月14日	広島大学附属福山高等学校で授業体験・交流会 広島風お好み焼き体験
6月15日	広島中央エコパーク施設見学 広島県農業技術センターで講義・試験圃場見学 独立行政法人酒類総合研究所で講義・施設見学 広島大学宇宙科学センターで講義・天体観望
6月16日	平和記念資料館、平和記念公園、原爆ドーム見学 厳島神社参拝 和食文化体験、修了証書授与式
6月17日	福岡空港へ移動、帰国のため出国



森本 真由子
(ひろしま国際センター
研修部研修課
プログラムオフィサー)

フィリピンの高校生が

広島で多面的に科学を体験

公益財団法人ひろしま国際センターでは、科学技術振興機構(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援の下、フィリピンの中でも理科系の基礎学力が最高レベルにあるフィリピン科学技術高等学校(PSHS)から高校生9名と引率者1名の計10名を招へいし、今年6月12日から17日までの6日間のプログラムを実施した。

プログラム内容は、池田秀雄広島大学名誉教授の監修のもと、科学実験や実習などに重点を置き、最新の廃棄物処理施設の見学や天文学・農学・生物学・物理学など、多面的に科学を学習する体験を提供した。また、広島平和記念公園訪問を通して、核兵器が人体や建物に及ぼす影響を学び、科学技術を世界中の人々の幸福のために使うことの大切さについて再認識するよう促した。広島大学のキャンパスツアーと意見交換会では、在学中のフ

II 特別連載 II

科学技術
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

ひろしま国際センターの活動報告

第366回



浴衣の着付け体験



平和記念公園で

この度のさくらサイエンスプログラムの欠航によりプログラムが一日短縮になったにも関わらず、参加者からの評価は高く、今後、同校内での口コミや来年1月の予定している広島の高校生の同校訪問により、より一層日本の技術、文化そして留学に関する関心を高めることができることを確信している。

【6月16日】平和記念資料館・平和記念公園で平和学習後、宮島を訪問し、日本の神社建築見学、参拝体験を通じて日本文化を体験した。戦争や原子爆弾の悲惨さについて改めて学び、平和な世界の実現に向けて考える機会となった。また、参拝作法や建築技法を事前学習し、意味合いや大切さを知ったうえで、

厳島神社を訪問したことで、より深く文化の大切さや保存の意味を感じ取っていた。その後、夜のフェアウェルパーティー兼修了証書授与式では、池田先生から修了証書が授与され、プログラムを振り返った。フィリピンの研究し精通されている広島大学IGSの関先生も参加され、改めて日本への留学や今後の交流について話していただいた。

特に、フィリピンではごみ問題が深刻かつ身近な課題であり、広島中央エコパークの埋め立てごみの出ない最新のごみ処理技術には関心が高かった。また、科学的な面だけでなく、日本政府の科学技術発展への投資に対して、その有益性を考えるなど政治的視点に關心を寄せる点も印象的だった。

●今後の展望

2018年度及び19年度において、当財団は、JSTの支援の下、PSHSの高校生を招へいする一方で、広島県が主催するプログラム「グローバル未来塾 in ひろしま」の受託者として、広島の高校生を伴ってPSHSを訪問し、両事業の相乗効果により、良好な関係の維持に務めてきた。しかし、20年度からのコロナ禍により、両事業は突然中止に追い込まれることとなった。またいつか再開されることを夢見て、21・22年度については、半日のオンライン交流を行ったが、効果は限定的であり、関係者の間では今後の交流維持が危ぶまれていた。幸いにも23年度に入り、コロナに関する規制が緩和され、両事業が再開されることとなり、PSHSと広島県の関係の発展の継続に大いに希望が持てることとなった。

【6月15日】東広島市の4つの施設を訪問し、さまざまな分野における科学を学習した。広島中央エコパークで、最新のごみ処理施設見学→広島県立総合技術研究所農業技術センターで、AI等を利用した農業技術の講義・収穫体験→独立行政法人酒類総合研究所で酒・ビール・ワインの違いなどを科学的に学習→広島大学宇宙科学センターで、4次元デジタル宇宙を体験後、「かなた望遠鏡」で火星・金星・アルビオンなどの天体を観望。それぞれの興味のある分野に触れ、フィリピンが抱える問題や課題を真剣に考える姿が印象的だった。

【6月17日】福岡空港まで見送り、プログラムを無事終了した。本プログラムは、日本の科学技術の体験や留学促進のみならず、交流を通じて、互いの文化に対する関心や理解を高めるきっかけも提供することができ、有意義なものになった。この活動を行うに当たりご支援下さいました受け入れ機関の皆様ならびにJSTさくらサイエンスプログラム関係者の皆様に、心よりお礼申し上げます。